

「オリーブ山での説教(1)」

マコ 13 : 1~37、マタ 24、25、ルカ 21 : 5~36

1. はじめに

(1) 文脈の確認

① A. T. ロバートソンの調和表は、新しい区分に入る (XII)。

② イエスの公生涯は終わった。

③ イエスは神殿を去り、オリーブ山に座る。

④ そこで、弟子たちに「オリーブ山での説教」を語る。

⑤ 非常に難解な内容である。

* 共観福音書のそれぞれの著者が、異なった読者を想定して書いている。

* それらすべてを並行して読む必要がある。

* 紀元1世紀のユダヤ教の用語が出て来るので、難解である。

* 特に、終末論的用語が問題である。

⑥ この箇所でも、火曜日が続いている。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 139 イエスはオリーブ山に座り、終末的出来事に関して弟子たちに教える。

マコ 13 : 1~37、マタ 24、25、ルカ 21 : 5~36

2. アウトライン

(1) 説教が生まれた歴史的背景

(2) 3つの質問

(3) 回答① : 世の終わりのしるし

(4) 回答② : エルサレム崩壊のしるし

(5) 回答③ : 再臨のしるし

(今回は、(1) ~ (3) を取り上げる)

3. 結論 :

(1) メシアの3つの役割

(2) 偽キリスト

(3) 戦争

オリーブ山での説教を通して、終末論について学ぶ。

I. 説教が生まれた歴史的背景(1~2節)

1. 1節

Mat 24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

(1) イエスは、神殿を去って行かれる。

①イエスの公生涯は終わった。

②弟子たちが近寄ってきて、神殿のすばらしさを口にする。

(2) マコ 13:1

「イエスが、宮から出て行かれるとき、弟子のひとりがイエスに言った。『先生。これはまあ、何とみごとな石でしょう。何とすばらしい建物でしょう』」

(3) 神殿の石は、3~3.5メートル、重量は8~10トンもある。

①壁に使用される石は、それよりも大きい。

②現在の西壁は、神殿域を支える壁の西側の部分である。

2. 2節

Mat 24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょう。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

(1) 当時、神殿はまだ工事中であった。

①前20年にヘロデ大王によって拡張工事が始められた。

②紀元64年に完成した(84年かかった)。

③イエスが神殿を去ったのは、紀元30年である。

④神殿は、紀元70年に滅びる(弟子たちは知らない)。

(2) イエスの預言は、文字通り成就した。

①ローマの将軍ティトゥスは、兵士たちに神殿を破壊しないように命じていた。

②しかし、ひとりの兵士がたいまつを神殿に投げ込み、内部が焼失した。

③内壁を覆っていた金が溶け出し、石と石の隙間に流れ込んだ。

④後日、それを取り出すために、石が取りのけられた。

II. 3つの質問(3節)

1. 3節

Mat 24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話してください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

(1) マコ 13 : 3

「イエスがオリーブ山で宮に向かってすわっておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに質問した」

- ①ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネという2組の兄弟が質問した。
- ②イエスの教えは、この4人の内弟子に対する個人レッスンである。

(2) 彼らは、3つの質問をした。

- ①「いつ、そのようなことが起こるのでしょうか」
*エルサレム崩壊のしるしは何か。
- ②「あなたが来られる時には、どんな前兆があるのでしょうか」
*再臨のしるしは何か。
- ③「世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか」
*世の終わりのしるしは何か。

(3) イエスの回答は、質問の順番とは異なる。

- ③世の終わりのしるしは何か。
- ①エルサレム崩壊のしるしは何か。
- ②再臨のしるしは何か。

(4) 「世の終わり」という言葉について

- ①「the end of the world」(KJV)、「the end of the age」(ISV)
- ②ギリシア語は、「アイオーン」である。
- ③当時のユダヤ人たちは、2つの「時代」を認識していた。
*「今いる時代」と「メシア的時代」(メシア到来後の時代)

Ⅲ. 回答①：世の終わりのしるし(4~8節)

1. 4~6節

Mat 24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。

Mat 24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

Mat 24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。

(1) 世の終わりのしるしではないことが2つある。

- ①これは、教会時代の特徴である。
- ②惑わされてはならない。

(2) 偽キリストの出現

- ①ユダヤ人の歴史上、最初にメシア宣言をしたのはイエスである。
- ②次に、バル・コクバが出た(紀元132年)。*彼は、偽キリストの最初の人物となった。

(3) 戦争の勃発

- ①「戦争のことや、戦争のうわさ」とは、地域戦争のことである。
- ②終末に関係しているのは、世界戦争である。
- ③教会時代を通じて、戦争は起こり続ける。
- ④これらのことは、終わりが来たというしるしではない。

2. 7~8節

Mat 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

Mat 24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

(1) ここで、世の終わりのしるしについて語られる。

(2) 世界戦争、飢饉、地震

- ①「民族は民族に、国は国に敵対して」というのは、世界戦争のことである。
*当時のラビ用語である。

②飢饉と地震は、世界中に広がっている。

③ルカ 21:11

「大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が現れます」

*疫病、恐ろしいこと、天からのすさまじい前兆

④「そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです」

*今の世が終わり新しい世になるための陣痛の初めである。

*メシア的王国が出現する前の苦しみを「陣痛」と呼ぶのはラビ的用語。

結論：

1. メシアの3つの役割

- (1) メシアは、預言者、祭司、王としての役割を持つ。
 - ①この3つの職責への任命は、油注ぎによって行われる。
 - ②メシアとは、油注がれた者という意味である。
- (2) イエスは、オリーブ山での説教で、預言者としての使命を終える。
- (3) イエスの大祭司としての使命は、最後の晩餐の席ですでに始まっている。
 - ①昇天されたイエスは、父なる神の右の座に座し、大祭司として信者のために執り成しをしておられる。
- (4) メシアは、王として再臨される。

2. 偽キリスト

- (1) シャブタイ・ツビ (1626~76年)
 - ①トルコのイズミール出身
 - ②メシア宣言を行い、ユダヤ人を聖地に帰還させると誓った。
 - ③彼を信じて財産を処分し、聖地に向かった人々が出た。
 - ④彼はトルコ軍に捕まり、幽閉後にイスラム教に改宗した。
- (2) ジェイコブ・フランク (1726~91年)
 - ①ポーランド出身のユダヤ人
 - ②シャブタイ・ツビの生まれ変わりと称して、メシア宣言を行った。
 - ③トーラーを否定し、秘義として性的儀式を行った。
- (3) メナヘム・シュネルソン (1902~1994年)
 - ①ニューヨーク出身のラビ
 - ②ルバビッチ派の多くの人が、今でもシュネルソンをメシアと信じている。
- (4) 異邦人の中からも偽キリストが出ている。
 - ①文鮮明
 - ②ニューエイジ運動
 - *特定のグルをメシアとする。
 - *「キリスト意識」の教え

3. 戦争

- (1) 第一次世界大戦 (1914~18年)
 - ①人類史上初の世界戦争である。
 - ②その結果、シオニズム運動が生まれた。

(2) 第二次世界大戦(1939~45年)

- ①第一次世界大戦の継続形
- ②その結果、イスラエル国家が誕生した(1948年)。
- ③紀元70年に国が滅びて以来のことである。
- ④これで、ユダヤ人たちが「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と祈る環境が整った。
- ⑤100年前には、聖書学者のほとんどがイスラエル回復の預言を比喩的に解釈していた。